

みどりの風

2024

5

令和6年

今月の表紙「夕陽、育む」(撮影：大崎 貴之 様) 第12回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



CONTENTS

- 熊本県知事選挙 木村敬氏が当選
- 令和5年度農政連リーダー研修会と第12回農業・農村の風景フォトコンテスト表彰式を開催
- 第12回未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品決定
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 山田としお氏コラム
- JAれいほく青壮年部活動報告
- 中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

内閣府が発表した今年春の全国交通安全運動推進要領では、令和6年4月6日から15日までの10日間を運動期間と定めている。この時期は、保育園・幼稚園、小学校、中学校等の入学式があり、子供たちも新たな生活が始まる時期である。特に真新しい大きなランドセルを背負った小学生を見ると、微笑ましい気持ちにもなるが、公道を歩く子供たちは、まだ十分な交通ルールを知らない。車を運転する大人が十分に気を付ける必要がある。これは自転車に乗る人も同じである。

道路交通法では、横断歩道のありなしに関わらず、歩行者優先と保護を謳っている。

さて今年には3つの重点項目を掲げている。
①通学路を始めとした安全な道路交通環境の確保と歩行者の交通ルール遵守、②運転者の歩行者優先意識の徹底と思いやり・譲り合い運転の励行、③自転車・電動キックボード等利用者のヘルメット着用である。

ところで、自動車は非常に便利な道具であるが、反面、わずかな判断ミスや故障、トラブルで多くの人を巻き込む事故が発生することがある。ある損害保険会社が発表した自家用車へのドライブレコーダーの搭載率は、約52%であった。5年前、神奈川県の名高速道路で起きたとおり運転による死亡事故が引き金になって、ドライブレコーダーの普及が進んだ。この事故以前の普及率は約15%であった。

高速道路や国道、県道が危険というわけでもない。農道だって危険はいっぱい潜んでいる。「思いやりと譲り合い」の気持ちを持ってハンドルを握りたい。

祝 熊本県知事選挙 木村敬氏が当選

任期満了に伴う県知事選挙は3月24日、投票が行われ、無所属で立候補し農政連が推薦した前熊本県副知事の木村敬氏が、同じく無所属新人の3氏を大差で退け、当選しました。

知事選の投票率は49.63%となり、前回の45.03%を4.60%上回りました。

球磨村を除く44市町村で前回の投票率を上回りました。

期日前投票を行った人は、全有権者の22.67%のほり、前回より6.10ポイント伸びました。

国の政治とカネの問題が連日取りざたされるなど、政治不信が渦巻く中、熊本県の将来を考える選挙であることや16年ぶりの新知事誕生により注目度が高まったことから投票率が上ったものとみられます。

木村新知事は当選の報を受けて熊本地震からの8年間、私達県民は一生懸命頑張つて創造的復興を成し遂げた。この流れを続けていこうという県民の意識が一つになったと思う。まずは、人



▲初当選を果たした木村敬氏

吉球磨の復旧・復興を1番にしっかりと後押ししていく、そしてTSMC進出のプラス効果を県内に広げていくとにも心配されている課題に二つの確に心えていく。これからの県政の課題は山ほどある。TSMCに関する渋滞、地下水の問題、そして農業・漁業・林業・畜産業、地域の商業、観光再生、建設など地場産業などしっかりと支えなければならぬという課題が山積していることを掲げました。

選挙戦で木村氏はTSMC問題に関連し、「農地不足に対し、代替農地の確保などで営農継続を丁寧に支援する。熊本の水資源を確実に保全するため、代替水源の確保や地下水涵養の拡大に取り組み。また、渋滞解消に向けて、道路環境改善やバス増便など公共交通利用拡大に着手する」との考えを示していました。

木村氏は、蒲島県政のよき流れを引き継ぐとし、蒲島知事のバトンをしっかり握りしめ、「くまもと新時代を築く」を掲げ、自民党や公明党の推薦、さらには各種団体の推薦を得て戦いました。

知事選開票結果（選管最終） 当選383,010

木村 敬	無・新
207,750	
幸山 政史	無・新
22,116	
毛利 秀徳	無・新
8,716	
宮川 一彦	無・新

令和5年度農政連リーダー研修会と 第12回農業・農村の風景フォトコンテスト表彰式を開催

熊本県農業者政治連盟は3月6日、熊本市内で「令和5年度農政連リーダー研修会」を開催しました。

研修会には、農政連委員、生産者代表、青壮年部・女性部代表、JA・連合会役員など約330名が参加、実に5年ぶりの開催となりました。

主催者を代表し、農政連の宮本隆幸委員長（JA熊本中央会会長）は「農政をめぐる情勢は、食料安全保障の強化をはじめ、価格転嫁や物流問題への対応など、重要課題に対する実効ある具体的施策と万全な予算の確保が必要となつている。本日の研修会では講演内容の「農政をめぐる情勢」をご理解いただき、農政連の盟友が一丸となつて農政連推薦候補の支援に取り組んでいただきたい」と、あいさつしました。

この後「農政をめぐる情勢」と題し、日本農業新聞編集局副局長の岡田健治氏による講演がありました。

岡田氏は、食料安全保障を掲げる食料・農業・農村基本法の改正、農業の持続的な維持・



▲研修会で挨拶を行う農政連の宮本隆幸委員長

発展、適正な価格の形成に向けて、今国会の情勢を踏まえ講演しました。

また、研修会に先立ち、JAグループ熊本とRKK熊本放送主催の「第12回未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト」の表彰式を行いました。

このフォトコンテストは、四季折々に移りゆく素晴らしい風景を未来の子供たちに残したいという思いから始まりました。今年で12回目を迎え、本年度は164名、669点の応募があり、グランプリには小山賢吉さん（八代市）が選ばれました。

なお、受賞者・受賞作品については、今月号（5月号）に掲載しています。たくさん作品をご応募いただき、ありがとうございました。



▲フォトコンテストで入賞した5名の皆さん（左端は中央会の宮本会長、右端はRKKの森本局長）

第12回

未来に伝えたい農業・農村の風景

フォトコンテスト入選作品決定!

四季折々に移りゆく表情を見せる美しい農村の風景。その素晴らしい風景を未来の子供たちに残したいという思いから始まった、JAグループ熊本とRKK熊本放送で主催する「未来に伝えたい農業・農村の風景 フォトコンテスト」も今年で12回目を迎えました。

県内で撮影された農業・農村にまつわる様々な風景の一瞬を切り取った素晴らしい作品が毎年多数寄せられ、令和5年7月から令和6年1月末まで実施した今回のコンテストにも、県内外から164名、669点の応募がありました。その中から25作品が入選し、そのうち5作品が受賞されました。

入選作品は、県庁ロビーやRKK熊本放送本社ロビー、JA会館、JA教育センターなどで展示されます。また、作品の一部は「農村環境保全キャンペーン」のCM素材や各種印刷物の素材等として広く使用させていただきます。



グランプリ
「伝統を守って」
小山 賢吉 (八代市)



RKK賞
「天気に恵まれて」
日當 國親 (八代市)



JAグループ熊本賞
「夕陽、育む」
大崎 貴之 (西原村)



たのしい未来賞(学生)
「じいちゃんのおいも」
平野 華紅 (山鹿市)



おいしい笑顔賞
「採りたてスイカ最高!」
倉橋 早妃 (合志市)

入 選

河本 ふみえ (菊池郡)
大崎 満洲美 (葦北郡)
前田 正 憲 (熊本市)
笠 朋 佳 (熊本市)
中川 めぐみ (菊池郡)
高柳 創 志 (宇土市)
谷川 秀 嗣 (宇土市)

谷津 由利子 (熊本市)
田上 歩 (熊本市)
桜木 樹 里 (合志市)
桜木 信 宏 (合志市)
奥村 勝 (熊本市)
下城 彩 美 (熊本市)
片桐 宏 子 (八代市)

嶋本 宏 美 (熊本市)
淵上 絵 里 (八代市)
住吉 絹 子 (宇城市)
福永 亮 二 (熊本市)
米田 順 子 (熊本市)
緒方 正 光 (阿蘇市)

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも 百姓宣言

【第70回JA全国青年大会開催】

2月28―29日に東京都内の会場で、第70回JA全国青年大会が開催されました。オンライン併用の今回、大会スローガン「未来へ種を蒔こう〜農業ついでいもんだ。」に向け、1,000名を超える全国の盟友が会場に集結しました。JA青年の主張とJA青年組織活動実績報告、看板コンクール、動画コンテストに加え、令和6年能登半島地震募金や寄せ書き、EXILE USAさんとのパネルディスカッションなど、今大会ならではの企画が会場を賑わせました。

JA青年組織活動実績発表では、熊本県からJAやつしろ青壮年部部長築総支部が九州・沖縄ブロック代表として出場を果たしました。皆さまの努力に敬意を表するとともに、次回はぜひ最優秀賞を目指し、これまで以上に青年部活動に邁進して頂きたいと思えます。



▲JA全国青年大会で挨拶を行う

私は全青協執行部の皆さまと同じオレンジ色のネクタイを着用し、壇上にて挨拶しました。本国会で食料・農業・農村基本法の改正が行われますが、食料安全保障の確立のためには、合理的な農畜産物価格を実現し、担い手の皆さまの所得を確保することが欠かせないと、お話ししました。会場で皆さまから頂いたエネルギーを糧に、4月以降本格化する国会議論に全力で取り組みたいと思います。

【令和5年度JAグループ農政推進の集い】
3月8日にJAグループ農政推進の集いが開催されました。当日は全国のJA組合長、都道府県中央会会長はじめ役員員の皆さまにご挨拶させて頂きました。

また、前日は全国農政連選定委員会が開催され、予備選挙が実施されました。私と同様JA組合長経験があり現在ホクレン代表監事、全国農政連の参議院議員選挙推薦候補者である東野秀樹（ヒガシノヒデキ）氏とともに、日本の農業の更なる発展のため、これから一緒に汗を流して参りたいと思えます。



▲農政推進の集いの様子

全国・農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「協同」の理念を

基本計画策定の基礎に

能登半島地震により亡くなられた方々、被災された方々に心より哀悼とお見舞いを申し上げます。発生から3カ月が経とうとしています。3月下旬現在、まだ9千戸以上で断水が続いており、8千人以上の方々が避難生活を余儀なくされています。被災された皆さんが、一日も早く元の生活と生業を取り戻すことができるよう、全力をあげて復旧復興を加速させてまいります。

さて、ここ2年の間、光熱費や物流コストの上昇等が国民生活に悪影響を及ぼしており、農業・農村においても、農業資材・飼料価格等の高止まりや異常気象の影響が続く、農業経営は、極めて厳しい状況となっております。

そうした中で、「農政の憲法」といわれる食料・農業・農村基本法の改正法案および関連法案は、去る2月27日および3月8日に閣議決定され、いよいよ国会での審議が始まりました。

「食料安全保障の確保」「環境と調和のとれた食料システムの確立」「農業の持続的発展のための生産性の向上」「農村における地域社会の維持」等の改正法案の基本理念に沿って、輸入依存体質から脱却し、わが国の「食」と「農」を守り、「農村」地域を維持・発展させる政策の推進が期待されるところです。

しかし、令和6年度末が期限とされ

ている「地域計画」策定の推進をはじめ、今後30年間で現在の4分の1まで激減すると予想されている担い手問題への対応、具体策や食料の適正な価格形成の仕組みの具体化、環境と調和のとれた農業生産の拡大など、農政の課題は山積しています。

これらの課題に添えていく具体的政策については、法案成立後、次期基本計画の策定に向けた議論の中で詰めが行われることとなります。

その際、家族や法人等の「協同」の取り組みを基本とする理念をしつかり踏まえた、担い手の確保や営農を重視した政策でなければなりません。政策は絶対に間違えてはいけません。今後とも国民の「食」と「農」を守り、「地域」を発展させていくためには、行き過ぎた競争や市場原理主義ではなく、JAを核とした「協同」の力こそが不可欠です。私は、こうした考えを基本に、農業者の皆さんの経営安定や、地域の農業振興に資する農業政策が実現されるよう、全力をあげていきたいと思えます。



▲JAグループ農政推進の集い

「JAれいほく青壮年部活動報告」

JAれいほく青壮年部は30名という少ない盟友数ですが、部長の松本昇平を中心に二人一人が協力し合い、JA行事や地域への貢献活動を行っています。

JA総合祭



▲JA総合祭で餅つきを行う盟友

盟友が栽培した野菜や果実の直売も行い、地元産農産物をアピールしました。



▲直売所に並んだ地元のレタス

新米キャンペーン



▲米の消費拡大を呼び掛ける盟友

毎年、JA総合祭において米消費拡大を兼ね、杵つき餅の販売を行っています。盟友だけでなく、奥様方にも手伝っていただき、和気あいあいとした雰囲気です。餅をつき、格安で即売しています。また、



▲特産のレタスを手に笑顔の盟友

3JA(れいほく、あまくさ、本渡五和)で作る天草郡市農協青壮年部連絡協議会と同郡市JA女性組織協議会合同で米の消費拡大を呼び掛けるため、新米キャンペーンを行いました。毎年、早期米が収穫される8月に行っており、一般消費者へ新米コシヒカリ200袋を「Aコープ北店」

で、「JA-SSれいほく」では、おにぎりにして配布しました。



▲スタンドでおにぎりを配布

スポーツ大会

スポーツ大会では、盟友相互とJA役職員の親睦を兼ね、ゴルフ大会を行っています。普段とは違う汗をかき、意見交換会では様々な意見があり、貴重な懇親の場となっています。



食農教育

子供たちに農業のことを少しでも知ってもらうために、町内保育園に野菜の植え付けを指導しています。子供たちが出来た野菜を食べ、農業に関心をもち、将来の担い手に繋がればと毎年続けています。



▲保育園児に農業の大切さを説明



▲トマトの苗を植える園児たち

JA熊本県女性組織協議会 70周年を祝い記念旅行

JA熊本県女性組織協議会は、創立70周年記念企画として2泊3日の記念旅行「伊勢神宮と冬の京都」を実施しました。

本企画は、県内各地の女性部員同士の交流を目的に1月30日から2月1日、1月31日から2月2日にかけて2泊3日の2班体制で実施しました。

県内各地から約130名の女性部員が参加し、京都御所や東寺等京都の名所観光、伊勢神宮の参拝、真珠加工体験等を行いました。

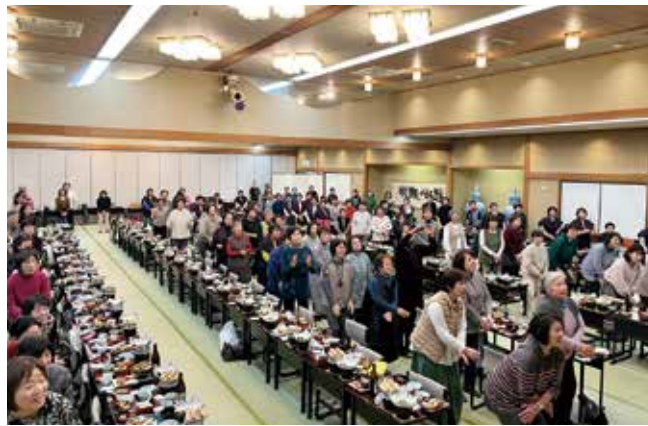
また、1月31日には2班合同の交流会を実施し、抽選会や各JAからの出し物の披露が行われました。

同協議会の太田桂子会長は「県内女性部員の皆さん、そしてこれまで本協



▲懇親会で挨拶を行う太田桂子会長

議会を支えてこられた先輩方のおかげで今日の私達がある。皆さんに感謝するとともに、この機会に他JAの皆さんとの親睦を深めていただきたいと話しました。



▲懇親会会場の様子



▶京都の五重塔を見学する参加者

令和6年産春夏瓜類・春野菜出荷大会 変化に対応する新たな挑戦 販売目標金額355億円目指す

JA熊本経済連は3月12日、熊本中央区のホテルで令和6年産春夏瓜類・春野菜出荷大会を開きました。生産者や全国の取引市場、JA関係者などおよそ260人が出席。産地と市場が一体となり、販売目標金額355億円(春夏瓜類90億円、春野菜265億円)の達成を誓いました。全国に向けていよいよ熊本県産春夏瓜類と春野菜の出荷が始まります。

同連は基本方針に①持続可能な産地体制②県域一体となった円滑な販売③多様な販促活動とPRの3つを掲げ、環境変化に対応した商品づくりと安定供給に努め、消費者に支持される「熊本ブランド」の確立に取り組んでいきます。同連の丁道夫会長はあいさつで「本年は暖冬傾向のなかでも1月の降雪、2月の降雨など寒暖差の激しいシーズンであったが、生育はおおむね順調であり、期待に沿える青果物を消費地に届けられると確信している。JAグループ熊本として、県内JAやJA熊本果実連との連携を深め、オール熊本の販売を更に強化すること決意を述べました。

令和6年産における春夏瓜類のすいか類、メロン類の作付面積は生産者の高齢化等により減少傾向。春野菜の作付は微減傾向だが、ミニトマトは多品

目からの転換等が増加しています。

本年産の生産計画(3~6月)は、春夏瓜類で作付面積803ヘクタール(前年比96%)、出荷数量2万6867ト(同96%)、春野菜で作付面積2519ヘクタール(同99%)、出荷数量8万2202ト(同100%)を見込みます。



▲挨拶をするJA経済連の丁道夫会長



▲挨拶をするJA経済連の梶原哲専務

この春、入園、入学、就職、転勤、セカンドライフのスタートなど、ご自身やご家族が様々な環境の変化を迎える方も多いのではないのでしょうか。JA共済では、ひと・いえ・くるまの総合保障でおひとりおひとりそれぞれに必要な保障をトータルでご提供しています。環境の変化は保障の見直しに最適な時です。この機会に、ご家族の安心の保障を見直してみませんか？

★★★ ひとの保障 ★★★

〈終身共済・医療共済・年金共済〉ご自身やお子様が新社会人として働き始める方には、終身共済と医療共済、そして年金共済を併せておすすめします。万一の時残されるご家族のための保障と、けがや病気に備える保障、老後の資金については、若いうちから計画的に備えておきたいものです。

★★★ いえの保障 ★★★

〈建物更生共済〉建物はもちろんですが、家財の保障を忘れていませんか？近年、大規模な地震や水災、夏の落雷によって、家財にも大きな被害が出ています。一度に複数の家財が被害を受ければ、想像以上に支出がかさむこともあります。ぜひ「建物更生共済 My 家財プラス」で万全の備えを整えましょう。

★★★ くるまの保障 ★★★

〈自動車共済〉高校卒業を機にお子様は自動車運転免許を取得されるご家庭も多いのではないのでしょうか。現在ご家庭にあるお車をお子様も運転される場合は、ご加入の自動車共済（保険）の運転者年齢条件等を必ずご確認ください。また、お子様が自転車通学を開始される場合、「日常生活賠償責任特約マウルモア」の付加をぜひご確認ください。熊本県では、令和3年10月1日から自転車共済（保険）への加入が義務付けられています。

詳しくは、お近くのJAへ
お気軽にどうぞ！



農政連

「JAグループ農政推進の集い」が開催される

JA全中と全国農業者農政運動組織連盟（全国農政連）は、3月7日に「JAグループ農政推進の集い」を開催しました。

令和5年度は、自然災害の激甚化・頻発化などにより、生産現場は厳しい状況が続いています。他方、気候変動や世界的な人口増加、中東やウクライナ情勢など、食料安全保障リスクの高まりが世界的な課題となっています。こうした中、食料・農業・農村基本法の改正やその関連法・施策の具体化に向けた検討、食料安全保障対策予算をはじめとする農業関連予算の確保、税制改正において、与党国会議員には依然として厳しい状況が続く生産現場を力強く後押しいただきました。

このJAグループ農政推進の集いは、今後も与党国会議員と連携を深め、農業・農村・JAグループの発展に向けた

農政のさらなる推進を期すために開催されました。

主催者挨拶で、JA全中の山野徹会長は「令和5年度の我が国農業は、生産資材の高止まりが続く方で適正な価格形成が進まず、生産現場では、まさに危機的な状況が続いた。令和6年度は、食料安全保障の確保に向けて、改正基本法の理念をいかにして、施策として具体化していくかが問われる年でもある」と述べました。

また、来賓として登壇した自民党の江藤拓総合農林政策調査会長は、「新しい農業、新しい視点をしっかりと取り入れながら、日本の食料安全保障を確立していかなければならない。JAグループの皆様方と対話を欠かさず、しっかりと議論を重ねながら新しい政策を実現していきたい」とあいさつしました。

この他、公明党の稲津久農林水産業活性化調査会長や自民党の森山裕総合農林政策調査会最高顧問からも力強いメッセージをいただきました。

また、この日は、次期参議院選挙の全国比例代表推薦候補の東野秀樹氏が挨拶に立ちました。



▲大会で主催者挨拶を行う全中の山野徹会長



▲大会で挨拶を行う江藤拓
総合農林政策調査会長



hug
58
ココロとカラダを
笑顔が広がるレシピ

check here!

Recipe
of the
month
今月のシェフズレシピ

セルリーのジェノベーゼ
タコとセルリーのマリネ

自分に何があっても、
この子の未来を守りたい。

もしものときの、頼れる保障。

定期生命共済(満期返戻型)
みちびき

ご存じでしたか? もしものとき、のこされたご家族の
生活費には大きな費用がかかります。

JAの定期生命共済(満期返戻型)なら

毎月のお生活費 **31万円**
1か月あたり10万円の消費支出
(生活費)の平均

10年間で**3,720万円** 20年間で**7,440万円**必要です。

ライフステージに応じて
保障金額を減額させることで、
お手頃な共済掛金で
必要十分な保障を準備できます。

はじめに共済
https://shiryu.ja-kyosai.or.jp

JA共済 0120-536-093 0120-167-100

くらしの保障、相続するなら JA共済

24481050046

にこやか
食堂
第3弾CM
公開

おいしいさの
秘密篇

くまもとの
おいしいもので、
みんなをにこやかに。

水の恵みと大地の香り

you+you くまもと農畜産物市場
熊本市北区高平2丁目25-57
TEL: 096-341-7070

新発売



発行／熊本県農業者政治連盟

熊本市中区南十反畑町2-3 電話 096-336-0600-12884

編集責任者／中村 隆宏

●発行日／令和6年4月15日/毎月1回15日発行

●定価／1部50円(但し、会員の購読料は会費の中に含む)

「寄席って、行ったことがありますか。私が最初に行ったのは、新宿の末廣亭です。ホールみたいに大きなところではなく、山鹿の八千代座みたいな小屋でした。落語だけでなく漫才もありました。私が好きなのは落語家はやつぱり柳家小さん師匠です。永谷園のお茶づけのCMにも出ていて、愛嬌たっぷりの丸顔が好きでした。半面、剣道7段の腕前で自宅に道場も作る程の剣道愛の持ち主でした。」

「私も、落語を聞くようになったのは、大学生のころ、飛行機の中でイヤホン越しに聞いていた落語です。JAし名人会や全日空寄席としてチャンネルがありました。皆さんもTVで毎週日曜日の夕方に「笑点」をご覧になっている方もいらっしゃるでしょう。軽快な話し方と落ちが何とも言えない妙を感じさせてくれます。」

先日、本屋で雑誌に落語のCDが添付されているのを目にして、すぐに購入しました。平成13年に63歳で亡くなった古今亭志ん朝、古典落語の名手として知られた落語家です。古今亭志ん朝は、落語四天王の一人にも選ばれています。他には立川談志、橋屋圓蔵、三遊亭圓楽を指します。年配の皆さんなら聞いたことのある名前でしょう。



「水張り水田」
撮影：河本 ふみえ 様
第12回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

あ
と
が
き